

十勝農業の今を知り 未来を読み解く



乳量増加 大規模化が進む
需要は厳しい環境が続く

ホクレンの生乳受託量が道内地区別トップで、全国有数の酪農地帯の十勝。今年も生乳生産量は前年を超えるペースで推移する。規模拡大が生産量増加につながっているほか、牧草やデントコーンの収量や品質も平年並みを確保しており、本年度生産量も前年超えが見込まれる。

道内の大半の生乳を集荷するホクレンによると、2020年度の生乳受託量(速報値)は、上半期(4~9月)の合計が66万5157ト、前年同期比4.3%増。全道(計207万6093ト、同比2.5%増)の32

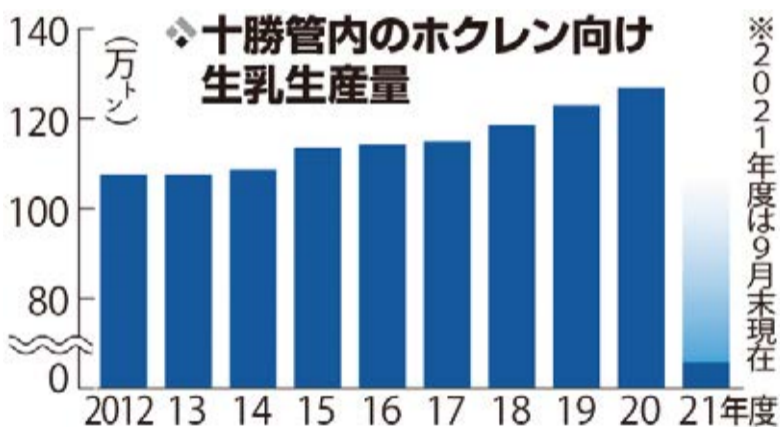


ホクレンの生乳受託量が道内地区別トップの十勝(11月、鹿追町)

%を占める。

十勝の生乳受託量は、前年度まで10年連続で過去最高となっている。その大きな要因の一つは、酪農家の規模拡大が背景にある。全国的な離農を受けて、生乳の安定確保が求められ、近年は乳価の上昇も拍車をかけている。

十勝農協連がまとめた20年の十勝畜産統計によると、管内の乳牛飼育頭数は前年比3%増の24万3815頭で、過去最多を更新。飼育戸数は



コロナ禍で業務用の消費が低迷し、本州の一部地域では夏休みが延長されて学校給食用も停滞。首都圏を中心とした夏場の天候不順による家庭用牛乳消費の鈍化や、巣ごもり需要の伸び悩みが加わるなど、生乳の需要に関しては、厳しい環境が依然として続いている。

北海道酪農検定検査協会(札幌)のまとめでは、生乳生産がピークとなる今年6月の十勝管内1頭1日当たりの平均乳量は33.4キ。過去最高だった19年6月と並ぶ高水準を保っている。生産者は、頭数の要因だけでなく、粗飼料の品質の高さや乳牛の改良、飼料設計技術が発達している成果とも捉えている。

低コストで良質な堆肥・液肥づくりと 蹄にやさしい牛舎環境づくりが同時に進められる!

嫌気性菌主体 家畜ふん尿専用発酵促進剤 **リサイクル・メイト®**



- 生のスラリー・尿・堆肥の良質発酵化ができる
 - 発酵期間が短い(冬期間でも発酵が進む)
 - 切り返し、曝気不要、手間をかけずどんな施設でも使用可能
 - 悪臭、ハエ・ウジの発生を強力に抑制
- 牛の歩行通路全体への散布で滑りやすさを改善しDD感染も抑制

堆肥づくりの経費を削減

(単位: 1000円)

項目	年間所要経費の比較	
	好気性処理(曝気処理)	嫌気性処理(資材添加処理)
処理資材費	0	143
電気料	181	26
敷料	256	192
施設償却費	135	135
機械償却費	540	259
機械修理費	96	46
計	1,208	801

所要経費 33%以上削減

手間をかけずに堆肥の効果も向上

項目	効果比較	
	好気性処理(曝気処理)	嫌気性処理(資材添加処理)
悪臭の発生抑制	中	大
害虫の発生抑制	中	大
処理作業の効果	中	大
労力節減	小	大
敷料の節減	小	大
疾病の防止	一	大
土壌の改良	中	大
連作障害防止	中	大
塩類障害防止	中	大
生産物品質向上	中	大
ふん尿処理コスト	大	小
所要処理施設	大	小

処理効果も大幅にUP